

## 令和元年度第2回江南市子ども読書活動推進計画策定委員会 議事録

日時 令和元年7月5日(金) 午前10時～午前11時

場所 市役所3階 第3委員会室

出席委員 7名

菱田 幹生	教育部長
可児 孝之	生涯学習課長
伊藤 勝治	教育課管理指導主事(統括幹)
平野 勝庸	健康づくり課長
鶴飼 篤市	こども政策課長
大島 里美	保育課長
辻中 憲一	指定管理者江南市立図書館館長

欠席委員 3名

稲田 剛	教育課
石原 香蔵	江南市立北部中学校校長
土井 紫	市民公募

### 議事

#### 1. 委員長あいさつ

#### 2. 議題

##### (1) アンケートの実施について

###### 【事務局説明】

- ・子どもの読書に関するアンケート調査実施要領
- ・実施方針の確認
- ・前回アンケートからの変更点

###### 【質疑、意見等】

委員：アンケート調査の集計は業者が行うのか。

事務局：内部で集計を行い、学校については、児童の前で先生が読み上げながら手を挙げてもらって、そこで集計を合わせて行ってもらう方法を想定している。

委員：学校で集計をしてもらうということは、学校で結果が把握できるということか。またその学校のデータとして持っている事になるのか。

事務局：集計をした学校は把握できるが、他校の結果は把握できない。冊子に集計結果

を掲載する予定なので、そちらで把握していただく。

委員：アンケート内容の変更点で、性別の記入をなくしたことについて、傾向として必要ないならいいが、もし学校側が男子の傾向、女子の傾向が今後データとして必要であるなら、残しておいてもよいと思う。

委員：夏休み前にアンケートを行うので、例えば「今回の夏休はいつもと違って本を読みたいと思いますか」というように変更もできると思うので、項目としては残すこともできるのでは。

事務局：何冊読みますかの問いに、何冊読みますと答えるのは難しいと思う。

委員：表現の仕方が設問によって違っている。

事務局：再度内容を確認させていただきたい。

委員：最初に学習まんがは含むという話だったが、そのことがこのアンケートの中には触れられていないので、答えるのにあたって学習まんがは含むことを示したほうがよい。

委員：「電子書籍」と回答された方にお聞きします、の回答の選択肢に「4. 紙媒体の方が本当はいいのだけれど仕方なく電子書籍を使っている」を追加してもいいと思う。

事務局：選択肢を変更させていただく。

まんがを書籍に含む、含まないかをわかるようにという意見については、学校の先生用の依頼文とアンケートの両方に注意書きを入れたいと思う。

事務局：以前の策定委員会で指摘のあった、学校での読み聞かせの時間を読書の時間に含むのかについては、学校での読み聞かせも読書として含めたいと考えているので、こちらも合わせて注意事項として記載したい。

事務局：学校の読書の時間は結構あるのか。

委員：学校によって違うと思う。

国語の授業の中にもある。朝の活動に位置付けている学校もあるし、ないところもある。読み聞かせはやっている。

事務局：読書の時間は本人が読むのか。

委員：授業の中でやるときは本人で、読み聞かせは朝の時間に位置づけられている。

事務局：それは先生が読んでいるのか。

委員：先生やボランティアの方が読んでいます。

委員：「ブックスタートが読み聞かせを行うきっかけになりましたか？」の問いについて、前回のアンケートの結果があれば教えていただきたい。

事務局：前回のアンケートは調査対象が434人。結果は

「1. きっかけとなった」・・・ 71人（22%）

「2. どちらかといえばきっかけとなった」・・・ 141人（44%）

「3. どちらかといえばきっかけにならなかった」・・・ 31人（9%）

「4. きっかけにならなかった」・・・ 38人（12%）

「5. ブックスタートを覚えていない、わからない」・・・ 43人（13%）

委員：「4月23日は、子ども読書の日であることを知っていますか？」について、知っている、知らないはどのような意図で質問されているのか。5年前に行ったアンケートの結果を見ると、親が知っているは1%で知らないが99%だった。調査目的にある、「資する」ということであれば、99%が問題だということになると、今回も含めどのように「資する」のか。おそらく今回も知らない人の方が多いと思う。しかし小学2年生が15%知っている、このことに驚いている。4月、5月に子ども読書週間ということで取り組みをしているが、この質問がどれだけ役に立っているのかと思う。

事務局：子ども読書の日は、国の法律で子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために定めた。意義については、継続的な読書活動の促進と子どもの読書活動の意義や大切さについて社会全体の理解を得るためにそういった日を設けた。イベントに参加していただくこともそうだが、年に何回か子ども読書の日や文字活字文化の日、子ども読書週間等に子どもの読書について社会全体で考えていただくということが必要であると考えているので、今回も掲載をしている。

事務局：ここに委員で、4月23日が子ども読書の日であることを知っている方は少ないと思う。保護者の方は知らない方が多いと思う。年長児保護者の方に聞くことに意味があって、特に年長児の子どもは自分ひとりで図書館には来られないので、保護者にこのあたりは確認して、知らないとなるとそれをどのように伝え、次の読書計画に取り入れて啓発していくか重要だと思う。

委員：ならば、4月23日の大体の説明を入れた方がいいと思う。子ども読書の日を知ってもらえれば注釈としてあればわかりやすいし、こういう日なのだと改めて意識をするかもしれない。

事務局：検討させていただきたい。

委員：この質問項目それぞれが、どういう意図をもっているのかと思うところがあり、例えば「お子さんの本をどのように手に入れていますか？」について、前回電子書籍の回答が多かったので電子書籍にこだわって、さらに追加質問されているが、この質問によって今後の計画の策定にどのように活かしていこうと思っているのか。

事務局：今、図書館で昨年度から電子書籍貸出をしているということで、基本的には著作権フリーの青空文庫を対象にやっている。新図書館でも令和5年から移転をして新しくなって、そのあたりも充実させたい考えもあるので、市民の方々の電子書籍についての考えや今の状況を把握したいことから今回追加をした。

委員：他の選択肢の「本屋（インターネット通販を含む）で買う」や「リサイクルの本屋で買う」は、どういう意図があるのか。

事務局：図書館で借りる現状がどれくらいあるのかというなかの、その他どういうことで本を手に入れているのだろうということである。「本屋（インターネット通販を含む）で買う」や「リサイクルの本屋で買う」は、わかりづらい部分があるのかもしれない。買うのと

古本を買う以外にどういう手立てがあるのか知りたい。そういう方々が図書館にも来ていただくにはどうしたらいいか現状把握をしたい。

委員：新図書館を建てるにあたってどうしたら足を運んでもらえるかが基本にある調査と  
いうことか。

事務局：今の図書館でも可能な限り対応していきたい。現状把握をしてそれに対して対応  
策を考えたい。

委員：資料5の設問で「Q13・14」と「Q15・16」については、順番が逆ではないか。

事務局：順番は特に問題はないので参考にしたい。

事務局：Q17について、児童に「江南市では、江南市立図書館を今ある場所から新しい  
場所に建てる予定をしています。みんなが行きたくなるような図書館にするために、  
どんなことをしてほしいですか？自由に書いてください。」の設問はわかりづらいの  
ではないか。「みんなが行きたくなるような図書館は、どんな図書館ですか？」など、  
もう少しかみ砕いた設問のほうがいいのではないか。意見をお聞きしたい。

委員：どういう答えを望んでいるのか。

事務局：新図書館の新しい取り組みの手掛かりとなればということで、書ける人だけでいい  
ので自由に書けるようにした。

委員：移転場所について聞きたいのでないなら、「江南市図書館が新しく変わります」と  
いう表現だけでいいのでは。

事務局：ねらいとしては、サービスをするうえで何かいい案があればということである。

事務局：例えば、寝ながら本を読めるなど、どんな意見でも構わない。  
自由記入なので、書きたい人だけ書けばよい。

委員：書きたい人だけなら、別刷りにすればいいのではないか。

事務局：検討させていただきたい。

## (2) その他

### 【事務局説明】

- ・今後のスケジュールについて

【第2回江南市子ども読書活動推進委員会 終了】